

万葉集があぼく

捏造された天皇・天智
上

渡辺康則

はじめに

皇極四年（六四五）、あの大化の改新を成し遂げたとされる人物を、わたしたちは「中大兄皇子」と呼び習わしてきました。しかし、「中大兄皇子」はのちに創作された呼称です。

なぜなら、中大兄は皇太子＝皇子ではなかったからです。

日本書紀の記述は、藤原不比等主導、反藤原氏主導の間で揺れ動き、変遷します。この両極が不比等による日本書紀改ざんと、それを修正する万葉集編者のメッセージである「万葉史観」の組みこみです。

不比等は日本書紀を改ざんしていたのです。その最重要課題が、天皇家の血統と無関係な天智天皇（中大兄）を、大和朝廷の正統な継承者に仕立てあげることです。万世一系の思想。すなわち天智天皇の出自の創作です。これの実現に、不比等は編集エネルギーのすべてを注ぎこみます。そして、養老四年（七二〇）の日本書紀完成時点で、とりあえず完成します。しかし、これに異議申し立てをするのが、長屋王や山上憶良らによる万葉史観です。万葉史観が、このウソを徹底的にあばきたてます。

万葉史観の手法です。万葉集は天智の身分表記をおとしめることで、天智天皇が大和朝廷の天皇の血を引いていないことを明るみに出します。それが皇子がつかない呼びすての「中大兄」表記と、歌表記です。万葉集の異例表記で、天皇の子どもとされた中大兄を完膚なきまでにこきおろします。

天智の歌は、天智天皇として一首、中大兄として三首が万葉集に遺ります。天皇としての歌は卷二の九一番歌で、この題詞に「天皇、鏡女王に賜へる『御歌』一首」とあります。天皇の歌は「御製歌」表記されるのが万葉集の決まりですが、天智の歌は「御歌」と格下表記されます。一方、中大兄の三首は卷一の二三―一五番歌群です。この題詞は「中大兄 近江宮御宇天皇 三山『歌』一首」となっていて、こゝでも中大兄は正当な表記がなされていません。日本書紀によれば、中大兄は舒明天皇の子ともです。天皇の子どもの歌は「御歌」と表記されなければならないのに、中大兄は単に「歌」と表記されています。歌の表記は、作者の身分によって明確に書き分けられます。そのルールはつぎのとおりです。

御製歌…天皇

御歌…皇后など天皇の妃、皇子、皇女など天皇の子ども

歌…それ以外の皇族（天皇の孫以遠の王、女王）や臣下、庶民

天智天皇Ⅱ中大兄は、万葉集の表記ルールに従えば、天智は皇子クラス、中大兄はただの皇族、ひよつとするとただの庶民クラスという評価です。歌の表記だけではありません。天皇の子ども、しかも皇太子に立てられている中大兄に、皇子がつきません。天皇の子どもで名前に「皇子」がつかないのは中大兄だけです。つまり――「天智天皇（中大兄）は大和朝廷の正統な皇位継承者ではない」。

これは万葉集の確信の編集スタンスです。万葉集はただの一度として天智（中大兄）を、大和朝廷の正統な継承者として登場させないのだから、これは単なる編集上のミスであるわけがありません。

しかし、万葉集が一人主張するだけでは、いかんせん弱い。それで、日本書紀の中の「皇子でない中大兄」「皇太子でない中大兄」の記事へと案内しているのです。それが万葉史観です。

これから詳細に確認しますが、日本書紀の中大兄もなぜか、皇子がつきません。書紀自体が中大兄を皇子としていません。それなのに、書紀には堂々と、中大兄が皇太子に立てられたという「立太子」記事が重複して出てきます。常識人ならだれが読んでも不自然な記事で、これを正面からあげつらっているのが万葉史観であるといえます。

要するに、中大兄が舒明天皇の息子であり、皇太子だというのは、藤原不比等の日本書紀改ざんがでっちあげたフィクションです。それを指摘し、修正するのが万葉史観の狙いです。本書は万葉史観の案内で、日本書紀を動員して「中大兄は皇太子でなかった」ことを証明します。天智は大和朝廷とは別の権力基盤、おそらく筑紫からの「東征王」である、この証明のすべてが一―五章にあります。

万葉集がわばく
捏造された天皇・天智(上)
目次

序章 万葉コードがいざなう

3

1 万葉集と万葉史観

15

2 原万葉集の成立

21

3 万葉史観が狙いうつつ中大兄

24

4 編集が連動する万葉集と日本書紀

29

5 養老五年の万葉集

35

6 二種類あつた万葉集

39

7 改ざん日本書紀を読みとく万葉コード

51

日本書紀を読みとく四つの構造

55

書紀の編集ルールに反する皇太子・中大兄

60

一章 天智東征を詠う

うた

63

1 中大兄と倭三山歌

66

中大兄を皇子と認めない日本書紀

76

東征に失敗した中大兄

82

2 時代順に並ぶ巻一冒頭歌群

88

書紀の記事と連動する倭三山歌

92

阿倍比羅夫をめぐるウソ

97

筑紫の「秋山われは」

103

畿内倭は「酸っぱい葡萄」

108

壬申の乱と「金」

113

4 天智を拒否する三輪山の雲

115

二章 中大兄皇子、不在の証明

- 5 見えぬ三輪山に天智の嘆き節
天智をコケにする紫野
額田王をめぐる三角関係で読みとく
額田王の歌は別に四首あり
万葉史観へいざなう額田王
128 120
- 1 中大兄と皇位継承のライバルたち
くり返される天皇なり損ね
145
- 2 乙巳の変の真実
皇極朝の皇太子は古人大兄？
皇子でないのに皇太子
139 134
- 3 大化に天誅くだすは蘇我蝦夷
青龍、西へ馳せる
あばきたてる『扶桑略記』
172 162
- 4 蘇我本家を称揚する孝徳朝
詔から消えた用明、崇峻朝
157 153
- 5 捏造された古人大兄一族殺害
『統紀』が否定する古人大兄謀反事件
古入謀反共犯者の信じられない後日譚
187 181
- 6 重なる古人大兄と大海人皇子
古入、大海人の出家は同一記事
175 172

資料 1

引用参考文献

249 237 230 222 219 216 210 202 195 192 187 181 175 172 162 157 153 148 145 139 134 132 128 120